

平成28年度 周南市友好親善訪問団報告書

(オーストラリア・タウンズビル市)



周 南 市

ご挨拶

周南市では、姉妹都市交流事業の一環として、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな人材を育成することを目的に、青少年等を姉妹都市へ派遣する事業を行っております。



平成28年度は、オーストラリア・タウンズビル市へ中学生15名、高校生5名、市職員1名の計21名を派遣しました。タウンズビル市への訪問は、平成2年の姉妹都市提携以来、今回で18回目となります。

団員達は、事前研修会にて、タウンズビル市について学んだり、英会話講座を受講したりすることで、訪問に向けて準備を行い、期待と不安を胸にタウンズビル市へ出発しました。

現地では、さまざまな活動を通して、オーストラリアの伝統や文化を学ぶとともに、日本の文化を伝えるなど、積極的な交流に努めてこられました。

この報告書は、こうした団員達のかげがえのない貴重な体験や感動をありのままに綴ったものです。

このたび、団員として参加された皆さんには、タウンズビル市での体験を通して学ばれたことを学校や地域の多くの方々に紹介していただくとともに、本市の国際交流活動にも積極的に参加され、将来、国際化社会の中で活躍されることを期待しております。

終わりに、本事業の実施にあたり、ご協力とご支援を賜りました学校関係者の皆様、タウンズビル市役所、ライアン・カトリック・カレッジ、さらには、団員を温かいおもてなしで受け入れていただきましたホストファミリーの皆様にも心から感謝申し上げます。

周南市長 木村 健一郎



タウンズビル市について

市の概要

タウンズビル市は、オーストラリアの北東部に位置する港湾都市で、クィーンズランド州では、州都のブリスベンに次ぐ第2の都市です。農業や鉱工業で栄える一方、農・鉱産物の積出港として重要な役割を果たしてきました。1896年当時、約3,000人の日本人が真珠貝採取やさとうきび栽培で北部クィーンズランドに出稼ぎに来ていたことから、日本政府がオーストラリアで最初の本格的な領事館を開設した都市です。

市街地には、公園や街路樹が整備され、美しい町並みを形成しており、観光施設としては、サンゴの生息する水族館やリゾート基地としてのマグネティック島などがあるほか、世界最大の珊瑚礁があるグレート・バリア・リーフへの玄関口でもあります。

- 人口／約18万人
- 面積／約3,733km²
- 言語／英語
- 通貨／オーストラリアドル(AUD)
- 時差／+1時間
- アクセス／ブリスベンから飛行機で約2時間、シドニーから飛行機で約3時間

タウンズビル市



シドニー

姉妹都市提携の経緯

当時の徳山市では、「英語圏との姉妹都市交流で一層の国際化を図りたい。」という、市民の声を受け、昭和62年(1987年)から相手先として、オーストラリアをはじめ、アメリカやカナダなどの諸都市について検討を始めていました。

こうした中、平成元年(1989年)に市内の企業を通じ、オーストラリアのクィーンズランド州政府駐日代表からタウンズビル市の紹介がありました。

その後、双方で検討の結果、人口や面積などの都市規模、温暖な気候、国際的な貿易港を持っていること、また、美しい町並みの近代的な都市であることなど、多くの共通点があることから、平成2年(1990年)9月30日にタウンズビル市長一行をお迎えし、姉妹都市提携の調印を行いました。

平成15年(2003年)4月21日、2市2町が合併して、新しく周南市が誕生した後も引き続き交流を続けることとし、同年10月10日、周南市長一行がタウンズビル市を訪問し、再調印を行いました。

平成28年度周南市友好親善訪問団 概略日程

月日	時間		日程
8月16日(火)	6:34 10:00 15:25 20:15	周南市 福岡市 シンガポール	徳山駅発 福岡空港発 シンガポール着 シンガポール発 (機内泊)
8月17日(水)	5:55 終日	シドニー ↓	シドニー着、入国手続き シドニー市内視察(オペラハウス、ハーバーブリッジ、ミセスマッコリーズポイント、ロックス等) (ホテル泊)
8月18日(木)	9:55 12:45	↓ タウンズビル ↓	シドニー発 タウンズビル着 市役所表敬訪問 市内視察(HQ水族館、キャッスルヒル)等 ライアン・カトリック・カレッジ(ホストファミリー紹介等) (ホームステイ)
8月19日(金)	午前 午後		ライアン・カトリック・カレッジの視察、英会話の授業 学生との交流プログラム (ホームステイ)
8月20日(土)	終日		ホストファミリー・プログラム (ホームステイ)
8月21日(日)	終日		ホストファミリー・プログラム (ホームステイ)
8月22日(月)	午前 昼食 午後		ピラボン・サンクチュアリ動物園を見学 コミュニティセンターにてお別れ会 英会話の授業、学生との交流プログラム (ホームステイ)
8月23日(火)	8:50 10:40 14:30 20:50	↓ ブリスベン ↓ シンガポール	タウンズビル発 ブリスベン着 ブリスベン発 シンガポール着 (機内泊)
8月24日(水)	1:20 8:35 9:58 11:15	福岡市 周南市	シンガポール発 福岡空港着 博多駅発 徳山駅着

平成28年度 友好親善訪問団員名簿



- | | | | |
|-----------|---|-----------|---|
| 11
ページ | 周南市立福川中学校 1年
飯田 夏 Natsu Iida | 31
ページ | 周南市立岐陽中学校 2年
野見山 真 Shin Nomiyama |
| 13
ページ | 周南市立周陽中学校 2年
石田 笑美里 Emiri Ishida | 33
ページ | 周南市立岐陽中学校 2年
林 芽依 Mei Hayashi |
| 15
ページ | 山口大学教育学部附属光中学校 2年
伊住 香帆子 Kahoko Isumi | 35
ページ | 周南市立岐陽中学校 2年
伏谷 克己 Katsumi Fushitani |
| 17
ページ | 周南市立富田中学校 2年
河村 晟覚 Akisato Kawamura | 37
ページ | 山口大学教育学部附属光中学校 2年
山本 美苑 Misono Yamamoto |
| 19
ページ | 周南市立周陽中学校 2年
黒田 佳歩 Kaho Kuroda | 39
ページ | 周南市立岐陽中学校 1年
芦村 侑倫 Yuri Yoshimura |
| 21
ページ | 周南市立太華中学校 2年
重國 昂大 Kodai Shigekuni | 41
ページ | クラーク記念国際高等学校 2年
岩本 美咲 Misaki Iwamoto |
| 23
ページ | 周南市立菊川中学校 2年
末次 里彩 Risa Suetsugu | 43
ページ | 山口県立南陽工業高等学校 2年
小林 開晟 Kaisei Kobayashi |
| 25
ページ | 周南市立岐陽中学校 2年
長野 麗音 Reon Nagano | 45
ページ | 山口県立新南陽高等学校 1年
中島 紗帆里 Sahori Nakashima |
| 27
ページ | 周南市立熊毛中学校 3年
新本 真子 Mako Niimoto | 47
ページ | 山口県立光丘高等学校 2年
西村 桃子 Momoko Nishimura |
| 29
ページ | 周南市立菊川中学校 2年
埜々下 美春 Miharu Nonoshita | 49
ページ | 山口県立南陽工業高等学校 3年
山崎 青空 Sora Yamazaki |
| | | 51
ページ | 周南市環境政策課
田中 梨絵 Rie Tanaka |

友好親善訪問団活動の様子

【オーストラリア タウンズビル市 平成 28 年 8 月 16 日～平成 28 年 8 月 24 日】

記:周南市友好親善訪問団 団長 田中 梨絵

8月16日(火)

朝6時に徳山駅に集合し、福岡空港からシンガポールへ向かいました。シンガポールのチャンギ国際空港では乗り継ぎの待ち時間が5時間弱あったため、2時間の自由時間を設け、買い物などを楽しみました。また、オーストラリアの入国カードを各々で記入しました。



徳山駅



シンガポール チャンギ国際空港

8月17日(水)

朝6時前にシドニー空港に到着し、ボンダイビーチ、オペラハウス、セントメアリーズ大聖堂など、シドニーを観光しました。



オペラハウス、ハーバーブリッジ



夕食のレストラン

8月18日(木)

シドニー空港からオーストラリアの国内線で移動し、昼過ぎにタウンズビル市に到着しました。

リーフHQ水族館を見学した後、タウンズビル市議会議事堂にて姉妹都市コミュニティフォーラム委員会の委員長であるアン・マリー・グリーンニーさんを表敬訪問しました。その後、キャッスルヒルからタウンズビル市内を展望し、夕方5時前にライアン・カトリック・カレッジに移動しました。そこで、ホストファミリーと対面し、5日間のホームステイが始まりました。



リーフHQ水族館



タウンズビル市議会議事堂



キャッスルヒルから市内展望



ホストファミリーと対面

8月19日(金)

それぞれのホームステイ先から、ライアン・カトリック・カレッジに登校しました。前日が初めてのホームステイだったこともあり、朝のホームルームまでの時間は、団員達はそれぞれのホームステイ先の話を多くしていました。

歓迎会では、ライアン・カトリック・カレッジの生徒から歓迎の挨拶をいただき、また、訪問団員を代表して小林くんが挨拶をしました。



ライアン・カトリック・カレッジ歓迎会

午前中は、英語の授業が行われました。休憩時間、昼食はそれぞれのホストファミリーの生徒と一緒に過ごしました。



英会話の授業

午後からはライアン・カトリック・カレッジの日本語クラスの生徒との交流授業があり、日本語と英語をお互いに教えたり、福笑いやダンス、ライアン・カトリック・カレッジの学生からのスラングのクイズなどが行われました。



交流授業

8月20日(土)、21日(日)

土日の2日間はホストファミリープログラムとして、それぞれのホストファミリーと過ごしました。

8月22日(月)

朝、ライアン・カトリック・カレッジに登校した後、ピラボン・サンクチュアリ動物園に行き、ヘビやワニに触ったり、コアラやウォンバットなど、オーストラリアの動物と触れ合いました。



ピラボン・サンクチュアリ動物園

ライアン・カトリック・カレッジに戻ってからは日本語クラスの生徒との交流事業で、折り紙、習字、けん玉を班に分かれて行いました。



お別れ昼食会では、ホストファミリーの生徒から団員一人一人への修了証の授与があり、ホストファミリーの生徒と一緒に昼食を取りました。山崎くんがお別れ会で挨拶を行い、出し物は全員でテイラー・スイフトの「Shake it off」を歌いました。出し物の紹介は芦村くんが行いました。



お別れ昼食会

8月23日(火)

この日が、タウンズビルを発つ日となり、朝7時過ぎにライアン・カトリック・カレッジに集合し、そこでホストファミリーとのお別れとなりました。

帰りはタウンズビルからブリスベンに移動し、ブリスベンからシンガポールを経由して、日本へ向かいました。



ホストファミリーとの別れ

8月24日(水)

朝8時半頃に福岡空港に着き、11時過ぎに無事、徳山駅まで戻ってきました。
みなさん、お疲れ様でした！



周南市立福川中学校 1年 飯田 夏 Natsu Iida

私はこのタウンズビル市の友好親善訪問団でとても良い思い出が出来たと思います。

私はタウンズビル市に行けることが決まってからワクワクする気持ちと不安な気持ちでいっぱいでした。初めてホストファミリーのリーと会ったときに日本語で自己紹介をしてくれて私を安心させてくれました。その時には不安な気持ちは消え、これから始まるホームステイにワクワクした気持ちでいっぱいになりました。

私のホストファミリーは、お父さんのクリス、お母さんのレベッカ、14歳のリー、12歳のモリー、8歳のミアの3人の女の子と、10歳のチャーリーの男の子1人の6人家族でした。私が一番仲良くなったのは一番年下のミアです。ショッピングにいったときもオススメを教えたり、一緒にゲームをしたりしました。

ホストファミリーの家はとても広く学校の運動場よりも大きな敷地の中に家がありました。自分の敷地の中で鶏や牛を羊を飼っていました。

朝、私は牛に餌をあげるためにお父さんの車に乗って餌をあげに向かいました。すると、お父さんが急に車を止めました。なんだろうと思って見てみるとそこには野生のカンガルーがいました。近くで写真を撮りたかったのですが近づくのを逃げていってしまいました。初めて野生の



敷地内で見た野生のカンガルー



敷地内で飼っている牛たちに餌やり

カンガルーを見ました。オーストラリには本当に野生でカンガルーがいるんだなと思って感動しました。

ホームステイは5日間だったけれど、週末のホストファミリーと過ごした2日間がとても楽しかったです。

まず、土曜日はお昼ごはんを買いに行きました。ホストファミリーに「すし」と言われたので普通のお寿司かなと思って買いに行くと巻き寿司しか置いていなかったのがビックリしました。サーモンとアボガドが入った巻きずしはとても美味しかったです。

その後、ショッピングに行きました。ここでは日本へのお土産を買いました。ミアにオススメされて買った「GOBSTOPPER」はとても美味しくて帰ってきて友達にお土産で渡したらとても気に入ってくれました。

夜はフットボールの観戦に行きました。応援にいったのは「COWBOYS」という地元のチームです。「COWBOYS」は大人気のチームでとてもファンが多くホストファミリーの人たちも大ファンです。1 回得点が入るごとに花火が上がったり、とても盛り上がっていました。私たちはホストファミリーから COWBOYS の T シャツをプレゼントしてもらい、それをみんなで着て応援に行きました。そこで他の団員の子たちに会い少しほっとしました。



テイクアウトのお寿司屋さん「ミスすし」



ショッピングモールでショッピング



フットボールの試合を見に行った

日曜日は、お昼にみんなで巻き寿司を家で作りました。ホストファミリーがお寿司を作っている間に、私達は卵焼きをつくってあげました。みんな「Good」といって全部食べてくれたのが嬉しかったです。

お昼ごはんを食べた後は海に釣りに行きました。はじめは、みんなと砂浜で遊びました。砂浜で文字を作ったりお城を作ったりして遊びました。その後お父さんが釣りを代わってくれたのでやってみると、4匹も釣ることが出来てうれしかったです。



お父さんと一緒にビーチでの魚釣り

私は、オーストラリアに行く前は自分の英語力がどのくらい相手に伝わるのが心配でした。でも、ホストファミリーはいつも優しく笑顔で話しかけてくれました。話す時には私にもわかるような単語を使い、ゆっくりと話してくれたのでとても安心しました。なので自分もできるだけわかる単語を組み合わせで話すようにしました。そうしたら家族ともコミュニケーションがとれて楽しく過ごすことができました。

ホームステイを楽しむには不安がらずに、笑顔で積極的に話しかけたり、問いかけに反応したりすることが大切だと思いました。

このタウンズビル市友好親善訪問団に参加して本当に良かったと思います。そしてオーストラリアという国が大好きになりました。また、機会があれば必ず行ってみたいと思います。そして、ホストファミリーと再会したいです。

オペラハウスの近く「ミセス・マッコリーズ・チェア」
有名な石段に座れた



周南市立周陽中学校 2年 石田 笑美里 Emiri Ishida

今回の訪問は私の中で最高の夏の思い出となりました。初めての海外旅行で、ホームステイという私にとって大きなイベントでした。準備しているときは頭の中に様々な不安がよぎりました。けれど実際に訪問してみて、悩むことや会話が続かなくなることもなく、むしろもっと滞在していたいと思ったほどでした。

私を受け入れてくれたホストファミリーは、とても優しく、おいしい料理をたくさん作ってくれました。なかでもステーキの味は今でも忘れられません。また、いろいろな場所へも連れて行ってくれました。海に連れて行ってもらい魚を釣りました。日本で食べられないもの、体験できないことをたくさんさせてもらいました。

そのほかにオーストラリアに行って印象的だったことが3つありました。

1つ目がオリンピックです。日本は体操や水泳でたくさんメダルを獲得して盛り上がっていましたが、オーストラリアでは



とても優しい私のホストファミリー

あまり見たことがないスポーツが放送されていました。ホストファミリーもオリンピックの放送を見て盛り上がっていました。私はその姿を見てオリンピックが世界共通の大きなイベントだということを再認識しました。

2つ目は家です。私が泊まったホストファミリーの家は私の家と違って湯船がなかったことと、トイレにウォシュレットがありませんでした。私が泊まった家だけかも知れないけれどオーストラリアに来たんだなぁという気分になりました。

そして3つ目は土足ということです。外国では土足ということは知っていましたが、実際に部屋に入ったとき、靴を脱がずにカーペットの上を歩くのは少し抵抗がありました。

最後に私はこの訪問団に参加して、たくさんの思い出ができ本当に良かったと思っています。最初は知らない人の家に泊まること、ホストファミリーと話ができるかな、良い思い出ができるか、など不安に感じていましたが、実際に行ってみるとそんなことはなく、9日間ずっと充実していました。お世話になったホストファミリーには本当に感謝しています。私が大人になったときホストファミリーとして外国の人を受け入れたいと思っています。そしてまたいつか機会があればもう一度、タウンズビルを訪ねてみたいです。



オペラハウス



シドニーで見た「ミセス・マッコリーズ・ポイント」坂を上ると着き、下は海



フィッシュアンドチップス



ガソリンスタンド

日曜日。ホストファミリーが、海辺のレストランに連れて行ってくれました。食事がくるまでの待ち時間に、皆で海に散策に出かけた時の楽しいひとときを、ホストマザーがカメラにおさめてくれました。



山口大学教育学部附属光中学校 2年 伊住 香帆子 Kahoko Isumi

「英語で会話することだけが大事なのではないよ。心から通じ合うこと、これが一番大事なんだよ」

英語に自信のない私は、今回の訪問団への応募にあたり、挑戦したい気持ちと不安な気持ちの両方で悩んでいました。その時に両親が私にかけてくれた言葉です。「海外の人と言葉だけではなく、心から分かり合えるようになりたい」新たな決意を胸に、私はオーストラリアへ旅立ちました。

しかし、オーストラリアに到着し、いざ、言葉の違いを目の当たりにすると、早くもその決意は揺らぎはじめ、声を出すことすら勇気がいることのように思えてきました。ホストファミリーの優しい言葉に何とか応じたいと焦れば焦るほど、気持ちと言葉が空回りし、ホームステイ初日は、やや後ろ向きな自分がありました。そんな時、私より一つ年上のホストシスターが、私に優しく話しかけてくれました。

彼女は学校で日本語を習っていて、「将来、日本語の先生になりたい」という程、日本語が大好きな子でした。「私、日本語が少し喋れるの。」と私



本当の家族のようにあたたかく迎えて下さったホストファミリー & 犬のジミー、レクシーと一緒に大切な宝物です。

にうれしそうに教えてくれました。しかし、シスターが話してくれた日本語は、会話や単語などではなく、五十音の言葉でした。でも、その一つ一つに、深い優しさが込められているようで、そのとても心地よい響きに、私の心が次第に和んでいきました。不安げな私を少しでも勇気づけようと、一所懸命に伝えようとしてくれたシスターの思いやり、言葉の壁を乗り越えて伝わってきたその優しさに、再び両親の言葉を思い出しました。「伝えたい気持ちがあれば、きっと届くはず」改めて思うことができ、ようやく自分の心を取り戻すことができました。

それからのホストファミリーと過ごす時間は、より大切で、よりかけがえのないものになっていき、本当の家族と一緒にいるような居心地のいい、幸せな数日間になりました。

別れの朝、ホストマザー、シスターが、私をそっと抱きしめてくれました。その瞬間、心からつながり合っているうれしさと、別れることのさみしさに、胸がいっぱいになりました。その時のあたたかなぬくもりは、今も忘れることのできない大切な宝物です。

今回の旅で、私は、オーストラリアの人たちのあたたかく、大らかな人柄も、雄大な自然も、ゆったりとした時の流れも、のびのびとした自由な校風の学校も、どれも全て大好きになりました。そう心から思えるのも、沢山の人の優しさに触れ、沢山の人の支えをもらい、その中で、心から分かり合えることの素晴らしさを教えてもらうことができたからだと思います。この大切な学びと、感謝の気持ちを胸に抱き、これからも一歩ずつ前進し、様々なことに挑戦していきたいと思います。そしていつか、私もホストファミリーのように、誰かを勇気づけ、力強く支えられる人に成長できたらと願います。



シドニーでは冬にも関わらず、海には沢山の人が海水浴やサーフィンで楽しんでいました。出勤前にひと泳ぎし、仕事に出かける人も多くいるそうです。



週末に、ホストシスター、リアンナちゃんのダンスの発表会を近くの公園に見に行きました。リアンナちゃんのうれしそうな笑顔と上手なダンス、動いたときに頭の上で楽しそうに揺れるトレードマークのグリーンのリボンがとても印象的でした。



6年生の日本語の授業を一緒に受けさせていただきました。



夢にまで見たコアラとの出会い。フワフワした感触は忘れることができません！！

仲良くなったホストファミリーのジョージの友達と肩を組んで撮りました。



周南市立富田中学校 2年 河村 晟覚 Akisato Kawamura

写真でしか見た事が無かったオペラハウスを目の当たりにして、とうとうオーストラリアに来たという実感と感動で胸がいっぱいになりました。想像よりずっと大きくて美しい建物や景色を視察して回り、一日中感動しっぱなしでした。緊張や不安は吹き飛んでいました。僕は、初めての海外での、この初日の感動を一生忘れないと思います。

ホストファミリーは、皆優しくて、英語が聞き取れない時も、僕より沢山のジェスチャーを使って教えてくれて、楽しく会話することが出来ました。買い物へ一緒に行き、僕が好きな食べ物を山のように買ってくれました。すべての食品のサイズが大きくて、肉がキロ売りなのが衝撃的でした。野菜や果物も、食卓に沢山出て、毎日ごちそうでした。特に、美味しかったのは、カンガルーのハンバーグと子供同士で作ったアイスクリームたっぷりのクレープでした。ホストファミリーのジョージのバイト先で飲んだシェイクやハンバーガーやピザもとにかく大きかったです。



ホストファミリー

海岸では、砂浜ダッシュをしたり、岩場を歩いたり青くて美しい海を満喫しました。海では泳ぎませんでしたが、プールに連れて行ってもらい、トライアスロンの選手で、泳ぎの得意なお父さんに、パタ足の特訓してもらったり、人命救助の体験をさせてもらいました。更衣室にはポッサムもいて、オーストラリアでは、厄介な動物らしいのですが、初めて見た僕は、動物園で見た、コアラやカンガルーの様にかわいいなと思いました。皆スポーツ好きで地元のラグビーチームの試合の応援にも行きました。どこの国でも、スポーツの話題は共通で、周りの人ともすぐ仲良くなり、一緒にGOと応援して楽しかったです。

公園では、字の書ける木に自分の名前を書いてみたり、コウモリの大群を見たり、お祭りで遊んだり、楽しい思い出が出来ました。



公園にいたコウモリの昼の姿



川の側にある、字の書ける木

ライアンスクールでは、業間にモーニングティーという時間が三十分位あり、おやつを食べたり遊んだりしました。ホストファミリーとはぐれてしまった結果、幼稚園から高校生までのいろいろな学生の人と話して仲良くなりました。

英語の授業では、午前中に体験した事を先生に説明し、会話の練習をしました。これは、日本でも自分で練習出来ると思いました。日本語の授業には先生として参加して、一問一答で会話をしました。普段から会話をして、英語を使う事がコミュニケーション力や語学力をつけるのに大切だと思いました。

今回の訪問でチャレンジする事の大切さ、自分の目で確かめ体験する楽しさを学びました。やる気さえあれば、積極的に、自分の意見も言えるし、準備や勉強もどんどん楽しくなるのだと実感しました。今後も使える英語と、海外や日本の文化をもっと勉強したいです。訪問の機会を設けてくださった関係者の方々と家族、優しく接して下さった現地の方々に心から感謝しています。



動物園でコアラに触れた



タウンズビル市の夜景です。



ホームステイ先の家の近くの海に行った時の写真です。季節は冬なのに、半袖でいられるほど心地よい気候でした。しかし、朝は長袖じゃないといられないくらい寒かったです。



周南市立周陽中学校 2年

黒田 佳歩

Kaho Kuroda

今回、タウンズビル市を訪問して感じたことがあります。それは、食事、言葉、ライアンカトリックカレッジの生徒との交流の事です。

食事で感じたことは、量が多いことです。学校に行った時に作ってくれた昼食では、ごはん以外にもフルーツやお菓子までありました。お菓子は、朝食べたりするそうです。日本ではありえないと思います。そして夜ご飯は、肉がメインでサラダや米を食べることはあまりありませんでした。

次に、言葉で感じたことは、言いたいことがなかなか伝わらなかったことです。例えば、お店で注文するとき何が欲しい？と聞かれてもどれくらい頼んだらいいかわからないから、右往左往してしまったり、メニューが読めないことがありました。また、質問されても、YES,NO 以外に答えるのが難しくて、会話が止まってしまうことがありました。しかし、何度も聞き返すことで、言っていることが理解できました。理解できると嬉しかったし、もっと話したいと思えるようになりました。

次に、ライアンカトリックカレッジの生徒と一緒に授業することで、自分から話しかけるようになったり、日本の習字やけん玉、折り紙を伝えることが出来ました。また自己紹介やゲームをすべて英語でしたり、一緒に踊ったりしました。

私が、わからないところはゆっくり話してくれたり、日本語を使ってわかりやすく伝えようとしてくれたので、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

私が今回のタウンズビル市訪問で学んだことは、2つあります。それはなんにでもチャレンジすることです。英語がわからなくて部屋に閉じこもるより、英語がわからなくてもとりあえず話してみれば相手にも話していて楽しいなと思ってもらえるし、自分も楽しいと思います。また、異文化を知り合うことで相手との仲も深まるしもっと興味がわくと思います。

今回の訪問で分かったことを日々の生活にも生かしていきたいと思います。



REEF HQ 水族館に行った時の写真です。REEF HQ 水族館では、けがをしているカメを保護して、治療などを行っているそうです。保護されたカメたちのほとんどが、人間の捨てたごみなどによってけがしてしまうそうです。



これはビラボンガサンクチュアリ動物園に行った時の写真です。日本では見られないコアラやカンガルー、ワラビーなどを見ることが出来ました。コアラの毛はもふもふというより、がさがさしていました。ほかにも、ワニや蛇に触ることが出来ました。



これは、シドニーで食べたフィッシュ&チップスです。量がとても多いです。ここで食べたフィッシュ&チップスにはサラダがついていましたが、ホームステイ先の食事は野菜が少なく、主食の米やパンもあまり出ませんでした。



これは、夕食の写真です。主食の米がなく、肉が多いです。野菜は少ないですが、揚げ物は毎日のように出てきました。量が多いので食べきれませんでした。



この写真は、動物園でコアラを間近で見たところです。



周南市立太華中学校 2年 重國 昂大 Kodai Shigekuni

「多文化社会であるオーストラリア」

僕は、様々な文化を大切にしているオーストラリアに大変興味を抱いていました。僕が今回のオーストラリアを訪問する上で特に二つの大きな目的がありました。

一つ目は、「オーストラリアの食について知る」ということです。僕は学校の給食が好きで、特に、世界の国々の食べ物が出るのを楽しみにしています。実際、それを現地で食べることができるということに、わくわくしました。

そして、ホームステイ先での食事は、イギリス料理が多い中、ピザやハンバーガーなど世界中の食べ物で、あふれていました。また、その中で、日本との結びつきも見つけました。それは、タウンズビルの街には、多くの「お寿司屋さん」があるということです。僕も、食べてみましたが、日本で食べるお寿司とは味付けが違い、正直、びっくりしました。ところ変われば、こうも味が変わるのかと、世界の人々の味覚の違いを肌で感じました。

二つ目は、「多文化社会の玩具について知る」ということです。僕の夢は、玩具を作る会社に勤め、自分の手でたくさんの玩具を生み出すということです。日本の玩具メーカーの質の高さは、世界でも有名だと思いますが、多文化社会であるオーストラリアには、世界中の玩具が集まっているのではないかと期待に胸を膨らませていました。僕のホストファミリーは、そんな僕の思いを知り、色々なお店に連れて行ってくれました。玩具を売っているお店は、



日本よりも二倍近くも大きく、売っている玩具の数もかなり多かったです。また、日本と同じ玩具でも、そのシリーズや機体は、最新のものであったり、値段も日本より安かったりしました。もちろん、日本の製品も陳列されており、僕は嬉しい気持ちになりました。将来、僕が作った製品もここに並ぶことがあったら、僕はどのようにホストファミリーに伝えようかなと、心の内で想像し、ちょっとときどきしました。

この写真は、オーストラリアのおもちゃ屋さんに行ったところです。とても広い売り場で、びっくりしました。

今回の訪問に際し、僕の大きな二つの目的は、僕の想像をはるかに超えた、収穫の多いものとなりました。このような経験をさせていただけたのも、僕のわがままを聞き、そして僕の過ごしやすい環境を作ってくれたホストファミリーがいたからこそです。そして、渡航前には、英語の研修を受けさせてくださり、安全に渡航をさせていただき、周南市の担当の方々。そして、

何より、今回の研修を後押し、僕を一番にサポートしてくれた家族。僕は感謝の気持ちでいっぱいです。

僕は今回の研修で得たことを、自分の将来の夢を叶える上での糧にしたいと思います。そして、多文化を大切にするオーストラリアの人々のように、僕も文化や人を大切にしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。



←この写真は、ホストファミリーの写真です。



↑この写真は、ホストファミリーと skateboard をしているところです。



←この写真は、ホストファミリーとポッチャをして、楽しんでいるところです。



ライアン・カトリック・カレッジの生徒と一緒にランチ



周南市立菊川中学校 2年 末次 里彩 Risa Suetsugu

私はこのホームステイに参加して、普段できないことがたくさんでき、とても良い経験になりました。

オーストラリアに行く前は、英語が通じるだろうか、自分から積極的に話しかけることができるかすごく不安でした。しかし、実際に行ってみると、現地の学校の生徒さんやホストファミリーの方々が、たくさん話しかけてくれてとてもうれしかったです。あまり上手ではない私の英語に、一生懸命に耳を傾けて、分かってくださったり、私に分からなくて困っていると絵やジェスチャーで伝えてくださったりと、本当に親切に接していただきました。おかげで、不安な気持ちがなくなり、現地の方とたくさんふれ合うことができました。

また、ホストファミリーでは、本当に、毎日、沢山の経験をさせていただきました。海や動物園など、有名な場所にも連れて行っていただきました。動物園では、コアラやカンガルー、



動物園で、カンガルーにエサやり

クロコダイルと触れ合うことができ、日本では絶対にできない、貴重な体験をすることができました。

私は、ホストファミリーに少しでも日本の文化や遊びを伝えたくて、折り紙やお手玉、けん玉などをもっていきました。折り紙では一緒に鶴を折りました。少し難しそうだったけれども、単語で説明をしながら、一緒に何度も折りました。興味を持ってくれたので、風船なども一緒に作りました。この他に、富士山や姫路城、桜の風景など、日本の美しい風景の写真を持って行って紹介をしました。私の英語でうまく伝わったかどうかわかりませんが、ファミリーの方は、みんな興味深く写真を見ていたので、日本の美しさが少し伝えられたのではないかと思います。

お土産に持っていた箸は、食事の時にファミリーのお父さんやお母さんが、何度も練習して上手に使えるように頑張っておられました。オーストラリアでは箸は使わないから、とても大変だったはずなのに、日本の文化を受け入れて、日本人の私に歩み寄ってくれているんだと感じ、うれしかったです。

その他にも、夜には、ホストファミリーの娘さんたちが、同じ年頃なので、いつも部屋に来てくれて、おやつを食べたり話をしたりと、毎日とても楽しく過ごすことができました。時には、英語が通じなくて困ったこともありましたが、お互いに分かるように様々な方法でコミュニケーションをとることで、何とか分かり合えることができました。



プレゼントの箸を使った食事風景

今回のホームステイを通して、私が強く感じたことは、国は違っても、人としてコミュニケーションを上手にとることが大切だということです。様々な人との出会い、新しい文化との出会いは、私自身を大きく成長させてくれたように思います。

これからも、出会いを大切に、新しい人や文化に積極的に関わり、視野の広い人間になりたいです。

竹トンボに挑戦→



↑お母さんの職場を訪問



「オージータグ」を観戦→



家の近くの海へ行った時に撮った写真。ここで、きれいな貝殻をもらいました。



周南市立岐陽中学校 2年 長野 麗音 Reon Nagano

私は周南市友好親善訪問団に参加し、日本とオーストラリアの違いや、自分自身が出来ようになった事を身にしみて分かりました。

私は、日本を出発する前は英語で会話する事がとても苦手でした。しかし、ホームステイ中に英語を身近に感じ、ホストファミリーや現地の方に積極的に話をする事ができるようになりました。

ホームステイを通じて一番感じたのは、英語は単語とジェスチャーだけで会話は成立するということです。今まで私は、単語をつなげて文を作ろうとしていました。でも、文で話さなくても単語をいくつか使うだけでも十分伝わりました。ホストファミリーも私に合わせてゆっくりと話してくれたので、分かりやすかったです。

会話が出来るようになると、苦手だった英語が得意になった気がしました。現地の方やホストファミリーと、たくさん会話ができてとても良かったです。

4日目に、ライアン・カトリック・カレッジを訪問した時はとても緊張しました。学校はとても広くてビックリ、日本とは全く違いました。2日間だけの訪問でしたが、一緒に勉強したり昼食を一緒に食べたり、楽しい時間を過ごしたくさ

んの友達ができました。この学校では日本語をととても勉強していて、「日本語ではこれは何？」などとたくさんの質問をされました。

日本とオーストラリアの一番の違いは、オーストラリアはとても土地が広いです。一つ一つの家が大きくて、一家庭ごとに必ず庭があり、たくさんの植物が植えてありました。また、家によってはプールがあったりもします。家全体が大きく道路の幅がととても広がったです。なので、交通渋滞になる事はめったにないそうです。信号の色は赤・黄・青と同じで押しボタン式の信号もあったけれど、ホストファミリーに教えてもらわないと分かりませんでした。



キャッスルヒルから見たタウンズビルの景色
ととても広くてきれいでした。



オーストラリアの海は、とても透き通っていて
きれい！！

週末、海に連れて行ってもらった時、色が驚くほどエメラルド・グリーンでした。日本の海とは違いとても透き通っていてきれいでした。海辺に行ったときには、ホストファミリーが貝殻を拾ってくれました。この貝殻は、私の宝物で大切に取っております。

この訪問を通じて、オーストラリアは広大でとても自然を大切にしている国だと実感しました。オーストラリアの人々はとてもフレンドリーで、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。この訪問で得た経験をもとにもっとも色々な事にトライし、積極的にがんばっていきたいと思いました。訪問団の一員として参加できた9日間は、私にとって決して忘れることのない良い思い出になりました。



ライオンの生徒と一緒に英語の勉強をした後に
記念写真。

週末、ホストファミリーにマグネティックアイランドに連れて行ってもらいました。そこで初めてコアラを抱っこしました。コアラはふかふかで気持ち良かったです。→



ホストファミリーのおばあちゃんの家に行って、いとこの子供達と撮った写真



周南市立熊毛中学校 3年 新本 真子 Mako Niimoto

私は、今回オーストラリアを訪問して、日本との文化の違いに驚くことがたくさんありました。世界は広く、私達の知らないことばかりだと思いました。

私は香港に行った事があります。香港には約三時間で行けましたが、オーストラリアには約十二時間と、とても遠かったです。飛行機内では、とてもきれいな制服を着たCAさんがいらっしゃいました。その中には、日本人のCAさんもいらっしゃいました。英語で堂々と話す日本のCAさんは、とても恰好良かったです。CAの仕事は、大変だけど、やりがいのある素敵な仕事だと思いました。

シドニーでは、昔ながらの建物がたくさんあり、オーストラリアの文化を少し知ることができました。シドニーの建物は、砂のレンガが使われており、全体的に黄色かったです。ですが、その黄色の建物が歴史を感じさせ、とてもきれいでした。

私がシドニー観光の中でも、一番印象に残っていることは、海です。シドニーのビーチは、とても空気が澄んでいて、きれいでした。海に行った日は、ちょうど快晴で、目が離せないくらい美しかったです。シドニーはタウンズビルと比べて寒かったですが、ビーチでは泳いでいる人がいました。ガイドさんのお話しによると、朝、海で泳いで

から仕事に行く人がいるそうです。とても素敵な日常だなと思いました。

タウンズビルに着くと、ホストファミリーと初めて会いました。とても緊張しましたが、ホストファミリーの人達は優しく、たくさん話しかけて下さったので、とても楽しかったです。

ホストファミリーに、日本から持参したお土産を渡すと、とても喜んで下さいました。少しでも日本の文化を知ってもらおうと、扇子や提灯など、日本らしいプレゼントにしました。運良く、ホストファミリーは、日本が好きで、日本の物をコレクションしているようでした。私は、海外でも日本を愛してくれ、少しでも近づこう、理解しようとしてくれていた人を知り、大変驚き、そして感動しました。

オーストラリアの文化に触れてみて、私は「まだまだ世界は知らないことだらけだな」と感じました。人間は同じ地球に生きています。ですが、人種、言語、文化はばらばらです。私は文化や言語が違ってもお互いを理解していかなければならないと思いました。

今回、オーストラリアに行く機会をもらって、自分の世界が広がり、より広く周りを見ることができるようになったのではないかと思います。日本から出ず、日本だけで暮らしては、知ることができない楽しいことをたくさん体験することができました。

私の将来の夢はまだ決まっていませんが、海外に行ったことによって、選択肢が増えたのは、確かです。この良い経験を胸に将来のことを考えていきたいと思っています。



ホストファミリーとビーチに行った時の写真



fish and chips という料理の写真



←オーストラリア人の服装について、調査しました。ラフな格好の人が多かったです。

学校の先生は、おしゃべりな人が多い？→





ホストファミリーと撮った写真



周南市立菊川中学校 2年 埜々下 美春 Miharu Nonoshita

私は、周南市友好親善訪問団に参加しました。自分の殻を破り、もっと成長できると思う、生き方のヒントを得て勉強したい、オーストラリアの食生活、接したことのない動物と接するという三つの理由をもちオーストラリアに行きました。私は帰国後に、出発前決めた理由について振り返ってみました。

一つ目は、自分の殻を破りもっと成長できると思う、生き方のヒントを得て勉強したいという理由です。私は、学校でも静かなほうで、自分の意見を恥ずかしくてあまり主張できないので、オーストラリアに行くことにしました。

オーストラリアでは英語が標準語で使われるので日本語は伝わりません。日頃使わない言語で話すのは勇気がいりますが、私はホストファミリーが優しく声をかけて下さったので積極的に話す事ができました。自分の思いを調べながらもきちんと伝える事ができたので良かったです。また、話す事ができなくても気持ちや、表現で伝える事ができるという事を学ぶことができました。これを生かして、恥ずかしくても自分の意見をしっかりと主張して学校生活を送って行き、もっと成績を上げたいと思います。

このような勇気が出たのは、オーストラリアに行けたからだと思うので、この経験を糧にして生きていこうと思いました。中学生で海外に行く事ができて、私にとって自慢話なので自分に自信を持ちます。

二つ目は、オーストラリアの食生活、接した事がない動物と接するという理由です。食生活は、日本とずいぶん異なっていると思っていましたが、昼食は寿司を食べに行ったので驚きました。夕食はステーキでした。想像では肉料理ばかりかと思っていましたが、魚やフルーツ、野菜なども食べられました。他国でも栄養のバランスに気を付けていることが分かりました。ホームステイ先では、お米も食べる事ができました。日本の食文化も取り入れてくれたので凄く嬉しかったです。オーストラリアは、日本の文化を取り入れてくれているので私もオーストラリアの文化を伝えて行きたいと思います。

動物は、カンガルー、クロコダイル、コアラと接する事ができました。テレビや本などでしか見たことが無い動物と触れ合う事ができました。コアラを触ってみると毛がふさふさで気持ちの良い手触りでした。これらの動物はオーストラリアにしかなくて、貴重なので接することができて本当に良かったです。

私の両親はオーストラリアに行ったり、オーストラリアにしかない動物とも接した事がないという話を聞き、先取りした感じがして嬉しい気持ちになりました。

私はオーストラリアに行くことができ、本当に良かったと思っています。準備からお世話になった家族や周南市の方々、またオーストラリアの方々に感謝し、これからこの大きな経験を生かして行きたいです。



動物園で接したコアラ



↑ 釣り



ショッピング



フットボール



ホストファミリーが自宅で飼っている羊

仲良くなったホストファミリーのジョージの友達と肩を組んで撮りました。



周南市立岐陽中学校 2年 野見山 真 Shin Nomiyama

僕は、この周南市友好親善訪問団の団員として参加したのは、自分はどこまで英語を喋ることが出来るのか試してみたかったからです。僕は英語がとても好きで、得意教科でもあります。しかし、実際に話すと、自分の思いをうまく伝えられなかったり、相手の言葉を理解できないこともしばしばありました。このとき、僕はどうやって話せばいいのかわからず混乱していたことを覚えています。

そんな時に助けられたのは、何とかして理解しようと協力してくれたやさしさです。分かりやすいように言ってくれただけでなく、”Don't worry.”という言葉までかけてくれました。そのことがあったからこそ、僕はホストファミリーと過ごす5日間を有意義に過ごすことが出来たのだと思います。

学校のほうでは、日本語教室の生徒の人たちとけん玉や福笑いをして遊びました。日本語がとても流暢で驚きを隠せませんでした。また、オーストラリアの生徒からは、ハンドボールという、ゴムボールを使ったゲームも教えてもらいました。学校で一日を過ごす中、特に



学校でけん玉を教えている時

違うと思ったのが、昼食などの時間は外で食べるということです。まるでピクニックみたいに違うクラスの友達と食べたりしているその姿を見て、すごいなと感じました。さらに、ティータイムという名の休憩時間があり、そこでは、果物などを食べてもいいという時間まで設けられていました。

ホストファミリーの方々とは、バスケットボールをしたりショッピングセンターで買い物をしたりと時間があつという間に過ぎていきました。

なかでも一番の思い出となったのは、グレートバリアリーフのビーチに行った時です。見晴らしのいいきれいな海でビーチバレーボールをしたり記念撮影をしたりととても楽しかったです。また、きれいな眺めでの食事やキャッチボールは、いつもは出来ないような経験だなと改めて感じる事が出来ました。



海でトライアスロンが行われていた時



グレートバリアリーフをバックにホストファミリーや、彼らの友達

僕はこの訪問で積極性の大切さを見習うべきだと感じました。いくら英語が話せたって、YESとNOなど質問に対する答えを述べるだけでは何一つ変わりません。だから、どんな些細なことでも自分から先に質問する。そこから会話を弾ませることに持ち込むことが、本当に会話が成り立つということだと思いました。

またこの訪問で、僕も少しは成長できたと思います。しかし、チャレンジすることはいつでもできるからと言って何事にも果敢に挑むことはできていないのが現状です。だから、チャレンジすることに貪欲になり、もっと高みを目指して頑張りたいと思います。

最後に、この訪問に連れていかせてくれた両親や、受け入れてくれたホストファミリー、そして携わってくれた皆さんがいて今があると思います。この経験は僕の人生の中でも大きな糧となり、一生の宝物です。



ピラボン動物園でゴアラと一緒にとった写真



キャッスルヒル

キャッスルヒルの夜景を見ながら、ホストシスターのライリーと並んで撮ってもらったものです。昼間とはちょっと違う景色で、とてもきれいでした。



周南市立岐陽中学校 2年 林 芽依 Mei Hayashi

今回、周南市友好親善訪問団の一員として参加したのは、私には英語の先生になるという将来の夢があったからです。しかし、私は、人と接することが苦手で、普段の生活でもオドオドしてしまう程です。しかも、初めての海外で自分ひとりだけということに不安もありましたが、夢のためにとにかく英語に関係する様々なことにチャレンジしたいと思い、今回参加しました。

ホストファミリーの家に到着した日は、これから五日間過ごせるのかとても不安でした。実際、ホストマザー達が話しかけてくれるまで、ずっと黙っていましたし、何か話しかけられても返事ができず、固まってしまう様になります。

そんな私に、ホストシスターのライリーは分かりやすい単語を使って話しかけたり、家の中を案内してくれたりしました。ライリーは十三歳で、私と年も近かったこともあり、ホストファミリーの中で一番話がしやすかったです。ライリーのおかげでホストファミリーの家でも、リラックスして生活することができました。



ホストファミリーとの食事



ライアン・カトリック・カレッジの生徒たち

ライアン・カトリック・カレッジでは現地の学校生活を体験しました。モーニングティー（朝の十時頃にお茶を飲みながらお菓子を食べる時間）があったり、全生徒が男女問わず同じ制服だったり、いろいろ日本との違いを感じました。また、ランチタイムでは、ライアンの生徒たちとミニゲームをしたり、面白い話を聞いたりするのがとても楽しかったです。

休日は、大きなショッピングモールや海に連れて行ってもらったり、ホストファミリーと一緒に料理をしたりしました。お母さんとライリーと一緒にカップケーキを作った時には、家族みんなで談笑しながら作るのとても楽しくて、心が温かくなりました。学校のない二日間は日本人や知り合いに会うことはないのですが、少し不安でしたが、優しいホストファミリーのおかげで英語にも慣れることができ、とても楽しく過ごすことができました。

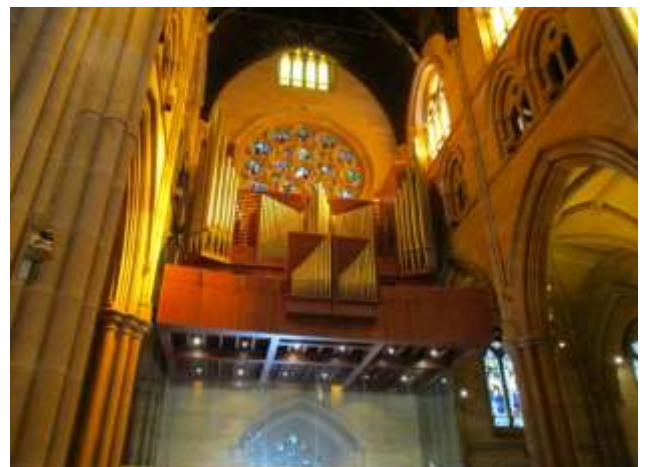


ホストファミリーと一緒に作った
カップケーキ

私は今回のタウンズビル市の訪問で、たくさんの貴重な体験をすることができました。私にとっても優しく接してくれたホストファミリーのおかげで、今回の目標でもあった英語に親しむことができ、たくさんコミュニケーションを楽しむことができました。これらの経験を生かして、英語の先生になるという夢に向かって頑張りたいと思います。そして、いつかもう一度タウンズビル市を訪れて、ホストファミリーと再会してお礼を言いたいです。



オペラハウス



セント・メアリーズ大聖堂

ホストファミリーと一緒に



周南市立岐陽中学校 2年 伏谷 克己 Katsumi Fushitani

僕は今回の訪問団に参加して、多くのことを感じました。

まず、シドニーを観光しました。大きな道路や建物などを見て、国土の広さを感じました。また、オーストラリアに日本人の為のお店があることに驚きました。オーストラリアがこんなにも親日国だとは知らずにいたので、とても親しみやすかったです。

他に観光では、有名なオペラハウスに行きましたが、写真で見たときより大きく、改めて実際に体感することが大事だと思いました。そして、自分から積極的にいろんなことを経験していこうと思います。

次に、タウンズビルを観光しました。まず飛行機から降りての第一印象はのどかなと思いました。緑が多くて、壮大でした。また、水族館に行って、オーストラリアの海の豊かさや、問題となっているゴミの問題などを知りました。環境は場所によって違いはありますが、環境問題はどこでも同じだと思いました。



オペラハウスの裏

キャッスルヒルに行き、上からタウンズビルを眺めました。そこで、なぜ広大に感じるのか、理由を探してみました。そうすると、高い建物がほとんどないことに気が付きました。京都の景色が綺麗なのと同じで、空が広く見えるので、とても広大に感じるのだと思いました。



夜ホストファミリーとお祭りに出かけて、屋台で大きなホットドックを食べている写真

観光が終わった後にホストファミリーと対面をしました。どんな人たちなのか、とても緊張し、対面を終えた後も緊張していました。そんな時、ホストファザーが「大丈夫」と励ましてくれました。また、「これからは私をお父さんだと思って過ごしてね。」とまで言ってくれました。こうして、ホストファミリーの温かさに触れることが出来ました。

そして、ホストファミリーの家に着き、改めて何人家族かを数えると、八人家族という大家族で驚きました。そんな大家族はウェルカムパーティーを開いてくれました。近所の人も集まって、盛大なものになりました。日本ではあまりパーティーをしないので、貴重な楽しい時間を過ごせてよかったです。

ライアン・カトリック・カレッジに通い、その生徒達と一緒に英語や日本語の授業をしている人々と仲良くできて、嬉しかったです。日本には無いモーニングティーの時間も楽しめました。最後に開いたお別れ会では、披露する歌をちゃんと歌えませんでした、プレゼントをして感謝を伝えることが出来て、心に残る思い出になりました。

タウンズビルの訪問で経験したことは、絶対に忘れられないことだらけでした。その経験をさせて下さった方々への感謝を忘れず、この経験を生かしていきたいです。また、海外のことを積極的に知ろうとする意志も忘れずいます。



←リーフHQ 水族館の治療中の亀

セントメアリー大聖堂→



←ホストファミリーとの朝食の様子



ホストファミリーのシャニーとタイソンと私



山口大学教育学部附属光中学校 2年 山本 美苑 Misono Yamamoto

私が今回の海外訪問団で分かったことは三つあります。

まず、現地の英語は日本の学校で習うものと少し違くと分かりました。オーストラリアの公用語は英語なので、日本で聞いていた何倍ものスピードで話しかけられました。最初は聞き返したり、ゆっくり話してもらえますか、と尋ねたりしていましたが、段々普通に聞き取れるようになりました。オーストラリアなまりも少しあって、相手に何かを伝えるときは、電子辞書を使うこともあったので相手を待たせることが多かったです。でもホストファミリーの方はせかさうんうんと待ってくれたので、時間がかかってもいいからコミュニケーションをすることは大事だと分かりました。

また話し言葉の例を挙げると、” See you.” を ” See ya.” と言ったり、” How are you?” と聞かれたら ” Good.” と答えたりすることです。聞いたことのない表現が日常生活にたくさんあって、新鮮でした。

次に、多文化社会は主に学校に根付いていると分かりました。オーストラリアは様々な国の移民を受け入れているため、多文化主義で有名です。私と同じ年のホストファミリーのシャニーは、学校で日本語とフランス語とドイツ語を勉強しているそうです。難しいけど楽しいと言っていて、私も負けられないなと思いました。シャニーが通っているライアン・カトリック・カレッジでは小学三年生でも日本語を勉強していて、学校内を歩いているだけで色々な子から「コンニチハ。」と挨拶されました。

また、週末にはカルチャー・フェスティバルというお祭りに連れて行ってもらいました。イタリア料理の屋台でラザ

ニアを食べたり、ブラジル人ダンサーのダンスを見たりして、様々な国の文化の良さが分かりました。

そして最後は、交友関係が広いと分かりました。ショッピングに出かけると、ホストファミリーに向かって色々な人が挨拶をしてきました。知り合いが多くていつでも気軽に挨拶するところが素敵だと思いました。また、ある夜にリビングに行くと、知らない女性がいました。その人はホストマザーの友達で、初対面の私にも明るく挨拶してくれたので、オーストラリアにはフレンドリーな人が多いなと思いました。別の日にスーパーへ行くとレジの人がホストマザーと「調子はどう？」と聞きあっていました。他のスーパーでもそうだったので、知り合いではなさそうでした。オーストラリアには人付き合いが上手な人が多いと分かりました。

ホームステイは五日間だけでしたが、たくさんの方が分かりました。日本とは違うことも多く、とても新鮮でした。そして、英語力やコミュニケーション力が格段につきました。また、新しい考え方も色々生まれました。今回身についた様々なことを活かしてこれからも日々学びたいと思います。



ホストファミリーとボウリング場に



ライアン・カトリック・カレッジの体育館



ホストファミリーとラグビー観戦
地元チームをみんなで応援しました。



毎年行われるカルチャーフェスティバルというお祭り。
いろいろな国の人が いろいろな出し物を出していておもしろかったです。

ライオンスクールで折り紙やけん玉を教えた時に撮ってもらった写真



周南市立岐陽中学校 1年
芦村 侑倫
Yuri Yoshimura

僕は、この訪問団に参加して、オーストラリアと日本の相違点や異文化を尊重するオーストラリアの文化を知ることができました。

8月16日(火曜日)に僕たちは、福岡空港を出発し、シンガポールを経由して、シドニーに着きました。シドニーでは、仲間と街中を探検し、オペラハウスや、ハーバーブリッジを視察し、そしてタウンズビルまで行きました。タウンズビル市でホストファミリーとであった後、僕はランドクルーザーに乗って、家まで出発しました。オーストラリアの道路は、日本と違って道幅が広く、ゆったりしているのが特徴で、車線を仕切る障害物がランニングコースになっていました。

そして僕は5日間ホストファミリーの家族(ハリーさん父、ジャッキーさん母、ジェームズくん、ライオンくん、ブライス君)と一緒にショッピングセンターを回ったり、海に行ったり、フットボールの試合に行ったり、と様々なことをしました。父のハリーさんは、軍人さんなので、陸軍の基地を見せてもらったり、軍事用品の売店にも行かせてもらいました。

この5日間のホームステイでは、困難なこともありました。例えば、何か日本のことを話してと言われた時などです。僕は、あまり日本的な写真をカメラに入れてなかったもので、説明するのにとても苦労しました。ですが僕は、自分のタフな性格をいかして、自分の出来る範囲の英単語やジェスチャーを使うことでこの危機を逃れることができました。諦めずに自分からアクションをすることで、存在感を出す。これが僕の第一歩でした。こうすることで僕は何気ないことでも声をかけてもらえられるようになりました。

僕のホストファミリーは、祝日は大体マクドナルドやハンگریージャックで朝食をとります。ハムとチーズと新鮮な野菜をサンドして特製のソースをかけたバーガーは格別の味わいです。5〜12\$と少し高いですが、日本と一味違うバーガーは、ワイルドな大きさと大人でも大満足です。

僕のホストファミリーの子どもたちは、みんなお店で働いています。日本でいうと中学生くらいの年齢の子どもたちは働いてオッケーだそうです。みんなマクドナルドなどで働いています。

夕食は家族みんなで食べますが、忙しい時などは、各自バラバラで食べるそうです。夜は大きなミュージックコンボでガンガン音楽を流したり、エレキギターをガンガン弾いたりして、家族みんなで楽しめます。そして眠くなると寝ます。

オーストラリアのトイレの流し方が独特で、日本のようにコックをひねるのではなくて、ボタンを押すことで、流します。水と一緒に洗剤も流れるので、半自動的に掃除してくれます。

平日の朝は、トーストやシリアルを食べます。トーストにはベジマイトやジャムを塗って食べる人が多いです。バターやマーガリンは必ず付くようです。

平日僕は、ライアンスクールという小中一貫の学校に通いました。そこで仲間と英語を習ったり、日本語を教えてあげたりすることで、コミュニケーションをとることができました。その後、僕は、スカウトに参加し、現地のスカウトのメンバーと様々なアトラクションを楽しみました。そこで僕は、バッジとワッペンなどをもらいました。僕のホストファミリーの男の子たちもみんなスカウトに入っていました。お母さんのジャッキーさんもスカウトのスタッフです。このスカウトは、フェスティバルの会場でも活動しています。木材とロープを使ってテーブルや椅子を作ったりしていました。



工作の写真

夕食は、パイナップルのフライとステーキにポテトとガーリックトーストがついてタルタルソースがかかっていた。野菜は主にミックスベジタブルなどで摂取するようです。

パソコンは主に Mac が主流でプレーステーションより X ボックスの割合が多いようです。ホストファミリーの家は、Mac6台にラックを全て占めるほどのソフトが置いてあったのでびっくりしました。

このホームステイを終えて、僕は、ホームステイによって自分の語学力に自信を持つことができました。勇気を出しての一言が、ステイをより良いものにします。「お買い物に連れて行ってもらえませんか？」の一言で、誘ってもらえるようになります。恥ずかしいからといってステイを台無しにするのではなくて、やってみようという実行力と勇気を持ちましょう。そうすれば自分に自信が持てます。僕はステイ中にスカウトへ行きました。その子どもたちの英語はとても早く、とても聞き取りにくいものでした。そこで僕は何度も聞きました。話すことをやめませんでした。だからというのなんですが、話し相手ができました。僕は何度も話すことで、コミュニケーションをとることに成功したのです。自分の英語は、とてもうまいというようなものではありません。だけど僕は自分には何もできないことはないとは思っていませんでした。少しだけ開いた突破口から、進む道を決めて行ったのです。



タウンズビル市の風景写真



フットボール会場での写真



橋の上での写真



ライオンズスクールで生徒と一緒に習字をした写真



クラーク記念国際高等学校 2年 岩本 美咲 Misaki Iwamoto

この度、私は周南市友好親善訪問団に参加して、初めて海外に行き、日本とは違った生活を体験しました。行く前は、初めてということもあって、不安と期待で一杯でしたが、いざ行ってみると、すごく楽しくて、英語は解らないけど自分から話しかけてみるなど多くのことにチャレンジしていくようになりました。この自分の成長は、一緒に行った訪問団員や受け入れてくださったホストファミリーのお陰だと思えます。

事前研修では、グループになって話し合ったり、ペアでみんなの前に立ち発表したり、バルンアートの練習や、歌の練習、沢山の事を全員で協力してやり遂げました。これは、自分にとっても皆にとっても、話し合う事、人前に出る事、自ら進んで行動する事、人をまとめる事など、良い勉強になったと思えました。この研修があったからこそ、現地でも協力し合えたのだと思えます。

現地では、先ずお金の使い方が判りませんでした。でも団員の子が教えてくれて助かりました。この時、事前に調べておく事の重要性を実感しました。

シドニーでは、団員のみならず観光を楽しみ、ホテルに宿泊しました。夜は友達と買い物に行きました。言葉も通じない中での買い物は、大変だと思っていたけど、友達は、言葉が通じないからこそ生まれる空気を楽しく明るくし

てくれて、とても楽しかったです。とても良い思い出となりました。

タウンズビルに着き、ホストファミリーとの合流会では、凄くドキドキでした。私をどういった思いで受け入れてくださるのか、言葉は通じるのだろうか、食べ物は合うのだろうかなど、とにかく不安でした。だけど実際は、凄く優しい家族でした。私のホストファミリーは、お父さん、お母さん、私より一つ歳下の女の子一人の三人暮らしの家庭で、女の子のラルカは、日本語がとても上手で、ずっと日本語を使って話してくれました。

ホームステイ一日目は、ショッピングセンターに連れて行ってもらい、私が好きだと言った香水を探してくれました。また、店員も凄く良い人で、半額にしてくださいました。嬉しかったです。

二日目は、お父さんとお母さんとラグビーの試合観戦に行きました。

三日目、四日目は、トランポリンがある遊び場や、とても大きなショッピングセンターで洋服を買ったり、フリーマーケットで、皆にお土産を買いラルカとは、将来の夢や恋話、悩みなど二人で語りました。やはり考えが全く違う事もある勉強になりました。あっという間に時間も経ち、友達やお世話になった人、ホストファミリー、オーストラリアともお別れがやって来ました。帰国がとても辛かったけれどまた来訪しようと思いました。

今回、参加して私は、言語以外に人との繋がり、思いやり、自立心の大切さを勉強させられました。そして、巡り合えたことに感謝して、夢に向かって邁進しようと思います。



習字の時に仲良くなった子どもたち



ホストファミリーのラルカとお父さんと三人で近くの海に行った。



ホストファミリーのお父さんとお母さんがラグビーの試合に連れていってくれた。



初めてワニを触った。



ウォンバットと触れ会った時の写真



ライアンスクールでの歓迎会あいさつ



山口県立南陽工業高等学校 2年 小林 開晟 Kaisei Kobayashi

出発一週間前までは、異国の地へと旅立つという実感は湧いてきませんでした。しかし、残り数日となったところで湧いてきたのは、不安と緊張、マイナスな気持ちばかりでした。そして迎えた出発の朝、不安を抱えながら徳山駅を出発しました。

飛行機を乗り継いでやっと着いたオーストラリア、初めてのオーストラリアはとにかく広大な国でした。何もかもが目新しく、シドニーでは念願のオペラハウスを見ることができ、今まで映像でしか見たことがなかった建物が現実に目の前にあって、驚きながらもオーストラリアに来たことを実感として感じることができました。

木曜日、タウンズビルに移動しました。タウンズビルもきれいな街でした。観光した後、ホストファミリーの方と初めて対面しました。迎えに来てくれたのは、息子のトーマスで、最初のあいさつを日本語でしてくれたので、とても安心できました。家に行ってみると、とにかく広くて、自分の家にはあるはずもないプールやビリヤード台があることに驚きました。

金曜日には初めてタウンズビルの学校に行きました。僕たちが日本で英語を勉強しているように、現地の生徒も日本語を一生懸命勉強していました。

週末には文化祭に行きました。日本では文化祭のことをスクールフェスティバルと習いましたが、現地ではカルチャーフェスティバルと呼ぶそうで、歌を歌ったり、ダンスを踊ったり、パフォーマンスをしたり、言葉はよく分かりま

せんでしたが、とても賑やかで楽しい時間を過ごすことができました。その後で海に行きました。海は少し濁っていて、海水は日本よりしょっぱく感じました。

月曜日、最後の学校へ行きました。生徒とけん玉をして遊びました。初めてけん玉をした子がほとんどのようでしたが、皆楽しそうで笑顔があふれていました。

外食にも連れて行ってもらいましたが、ステーキの大きさには圧倒されました。あんなに不安でいっぱいだったホームステイでしたが、親切で優しいホストファミリーと海へ行ったり、ボウリングをしたり、苦手な犬と触れ合ったりするうちに不安は吹き飛び、楽しい時間を過ごすことができました。

24日の朝、無事に日本に帰ってくることができました。あっという間の9日間でしたが、少しは自立することや成長することができたのではないかと思います。ホームステイでは、日本ではできない貴重な体験を何回もさせていただき、ホストファミリーにはとても感謝しています。

12月にはトーマスを含むタウンズビルの方々が周南市に来られるそうなので、トーマスと再会することを今から楽しみにしています。今度は僕たちが周南市の素晴らしさを向こうの方々に紹介したいと思います。

今回はこのような貴重な体験をさせていただき、本当に有難うございました。



家の前に大きなプールがありました。日本では、自宅にあることが珍しいので驚きました。



一つの部屋にベッド、机など日本とあまり変わりませんでした。



とにかくりビングが広がったのですが、造りは日本とほぼ一緒でした。



平屋で横に広い家でした。オーストラリアの国旗も掲げられていました。



リビングとキッチン間にビリヤード台がありました。キューも沢山ありました。



ホストファミリーの家族写真

これはホストファミリーとの写真です。すごく大人数でとてもたのしかったです。とくに右から2番目の奥にいる女性とは歳も近くとても仲良くしてもらいました。



山口県立新南陽高等学校 1年 中島 紗帆里 Sahori Nakashima

私はこのホームステイで沢山の思い出を作ることができました。

まずはシドニーです。1番印象深く残っているのはオペラハウスとハーバードブリッジです。テレビでしか見たことがないこの2つを実際に見るとオーストラリアに来たんだと実感しました。

次にタウンズビルです。最初にタウンズビルを観光しました。とても美しく綺麗な街で、これからこの街にホームステイするのかなと思うと楽しみでした。そして学校に着くとホストファミリーとの面会でした。とても緊張していましたがホストファミリーが私に気さくに声を掛けてくれたので緊張がとれて思っていることが話せるようになりました。その後家に着いて家族を紹介してくれました。英語が分からなかったらゆっくり話してくれたり、辞書で調べて意味を知ったりととても優しくしてくださいました。

2日目は学校でした。ホストマザーがお弁当を用意してくれていたのを持って行きました。オーストラリアの学校はモーニングティーがあり、ホストファミリーのお友達と一緒にオヤツを食べました。お友達は私に気を使ってくれて嬉しかったです。

3日目は学校がなかったので海に連れて行ってもらいました。海ではホストファミリーとキャッチボールをしたり

スケートボードで遊んだり、そこでとても仲良くなれた気がします。その日の夕飯はバーベキューで、ホストファザーが焼いてくれました。お肉はとても大きくて食べきれなかったけど美味しかったです。その後キャンプファイヤーをして、残った火でマシュマロを焼きました。その時見た夜空は流星や天の川が見れてとても綺麗でした。

4日目はプールに行ったり羊飼いの所に行ったりテニスをしたりと忙しかったけど、とても充実していました。その後ホストファミリーの趣味のピアノを弾かしてもらいました。凄いとってもらえて拍手をしてくれました。

5日目は学校でした。日本で言えば5年生ぐらいの子に日本の文化である折り紙や書道、けん玉を教えました。とても熱心にやってくれて日本のことが好きなんだろうなと思いました。この日は最後の日だったので、私たちのためにお別れ会を開いてくれてとても嬉しかったです。

私はこのホームステイを体験してコミュニケーション能力が大切なのがありました。言葉が伝わらなくても伝えようと努力したり、ジェスチャーを使ったりと心が通じればわかるのだと思います。このことを踏まえた上でまたタウンズビルに行きたいと思いました。



ホストファミリーの家でキャンプファイヤーをしたときの写真



ホストファミリーとテニスをした時の写真



↑初めてビリヤードをしたときの写真
これはホストファミリーの家であってホストファザーがやっている所を混ぜてもらって対決しました。
ボロ負けでしたがとても楽しかったです。



↑ホストファミリーと銃を持って撮った写真
これは本物の銃を握って撮った写真です。中には何も入っていませんがそれでも重くてビックリしました。
なかなかできない体験だったので嬉しかったです。



学校で撮った写真



ホストファミリーから修了証をいただきました。



山口県立光丘高等学校 2年 西村 桃子 Momoko Nishimura

今回、私がこの訪問団に参加した理由は、自分のコミュニケーション能力の向上と英語力の向上のためでした。しかし、参加が決まってから出発する日までの間、緊張と不安でいっぱいでした。ホームステイ先のファミリーがどんな方たちか、自分の英語が現地の人にきちんと通じるのか、そんな不安を抱きながら日本を出発しました。

約1日のフライトを終えて着いたシドニーは、自分が住む周南の町並みと全く違っていました。現代的な建物や伝統的な建物もあり、とてもワクワクしました。ヨーロッパ系の人やアフリカ系の人、そして東洋系の人など様々な人種の人が出て、自分が今、本当に海外にいるのだと実感しました。

シドニーでは、オペラハウスなどの観光地を見学して1日を過ごしました。そして、次の日、いよいよタウンズビル市に入りました。タウンズビル市は、シドニーと違いとてもゆったりしていて自然豊かな町でした。緑があふれていて、高い建物もなく空がとてもきれいに見えました。タウンズビルでの初日は、水族館やキャッスルヒルなどを観光し、それから、



キャッスルヒルからみたタウンズビル

待ちに待ったホストファミリーとの対面でした。ライアン・カトリック・カレッジで対面したホストファミリーは、とても優しく笑顔で私に接してくれました。残念ながらホストファミリーの体調のため、ホームステイの2日目からヘムケンさんのお宅へ移ったのですが、どちらのファミリーもとても親切で、私がタウンズビルを満喫できるようにたくさんの経験させて下さいました。ホストファミリーとの会話は、私が理解できるまでファミリーがジュスチャーなどを交えて話して下さいたり、スマートフォンの翻訳アプリなども使ったりしてくれました。私が会話の意味を理解して返事を返したとき、ホストファミリーが笑顔になってくれたのがとても印象に残っています。

平日にはホストシスター・ブラザーと学校に行き、休日にはホストファミリーと家や町などで過ごしました。ホスト



周南市と同じくらい美しいタウンズビルの夜景

マザーが大きなショッピングセンターに連れて行ってくれ、ショッピングをしたり、夜にビーチやキャッスルヒルに行き夜景を楽しんだりしました。

5日間ホームステイをしているうちに、私は英語で会話することは、学校で習っていた英語と少し違うことに気づきました。ホストファミリーと会話するとき、文法よりも単語の方がとても重要でした。YesやNoだけでも会話が成立するときが多くて、英語が苦手な私でも、単語がわかれば相手が何を言っているのか理解しやすく、ホストファミリーと普通にコミュニケーションをとれていました。そのことに気づいたときには、私は英語を楽しんでいるようになっていました。

今回のホームステイを通して、私の目標であったコミュニケーション能力と英語力の向上を少し達成することができたと感じています。今後、この貴重な経験で得た力を日々の生活や将来の夢に生かすことが、次の私の目標です。



よくベッドを占領されたホストファミリーの猫



不思議でかわいい動物ウォンバット！



伝統的で美しい造りの大聖堂（シドニー）



タウンズビルのリアルな壁画（何と手書き！）



この写真は動物園でコアラと撮りました。
人生で初めて生のコアラを見ることができ、触ることも出来ました。コアラを見ることは出発前から楽しみにしていたのでとても嬉しかったです。



山口県立南陽工業高等学校 3年 山崎 青空 Sora Yamazaki

今回訪問団に参加して様々なことを学び経験することができました。

僕にとって初めての海外での生活だったし英語が得意ではないので出発前は不安でした。壮行会では、「現地の方と英語でコミュニケーションが取りたい」と目標を発表しました。



現地の学校での一枚です。簡単ではあったけど、英語で会話ができコミュニケーションがとれたのでよかったです。授業も楽しかったです。

最初のほうは観光がメインだったので実際に英語を話しはじめたのはホストファミリーの家に行ってからでした。家ではホストマザーのジェシタさんが携帯のアプリで英語を日本語に訳してくれたり、僕らが聞き取れる早さで話してくれました。トーマスは日本語の勉強をしているらしく日本語でも話しかけてくれました。この2人のおかげですぐになじむことができました。

トーマスの通うライアン・カトリック・カレッジに行き現地の学校生活を体験することができました。授業を受けるにつれ徐々に先生が何を言っているか理解することもできました。ライアンの生徒とも簡単な英語やジェスチャーなどでコミュニケーションをとることができました。言葉が違っていても方法を考えれば

自分の話を伝えることができるんだなと感じました。出発前の目標は達成することができてよかったです。

そして今回タウンズビルに行き特に思い出に残った出来事が二つあります。

一つ目は動物園に行ったことです。まず驚いたのは放し飼いされている動物もいたことです。色々な種類の鳥がいたり、カンガルーも目の前に出てきました。他にもヘビやワニの赤ちゃんを触ったり、ワニの餌やりもみることができました。僕がこの動物園で一番印象に残っていることはコアラをみたことです。今まで一度も見たことがなく動物園に行くと言われた時から楽しみにしていました。実際に見てみて動きがゆっくりで可愛かったし写真も撮れて嬉しかったです。また触ることもできました。今までに触れたことのない肌触りでした。実物を見ることができとても嬉しかったです。

二つ目はホストファミリーと海に行ったことです。シドニーでみた海がとてもきれいでオーストラリアの海で泳いでみたいとずっと思っていました。ファミリーに連れて行ってもらったタウンズビルの海もきれいでした。とても気持ち良かったし楽しかったです。

その他にも色々な経験ができたし、タウンズビルについてもたくさん知ることができました。ホストファミリーの方々には本当の家族のように優しく接してくれたので充実した日々を過ごすことができました。最後の日にはプレゼントまでいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

そして参加を後押ししてくれた家族、協力していただいた学校の先生方にもとても感謝しています。高校生活最後の夏休みにこのような貴重な経験ができ、一生の思い出になりました。またタウンズビルに行きたいです。



隣のおじさんの家での写真
人生で初めてアーチェリーをしました。



お父さん、お姉ちゃんと一緒に愛犬のラストイー、パディーの散歩に行った時の写真
2匹とも人懐っこくてとても可愛かったです。



ホームステイ最後の夜の写真
ファミリーの方々には仕事などで忙しく最初で最後の全員がそろっての夕食でした。



タウンズビル市出発前の写真
ホストファミリーのトーマスとお母さんが見送りに来てくれました。あっという間の5日間でした。



ホームステイ先の娘さん(ハンナ)とタウンズビル市が見える山の上で撮った写真



周南市役所 環境政策課

田中 梨絵

Rie Tanaka

「周南市友好親善訪問団の同行者としてタウンズビルに行ってみませんか？」とお話をいただいたことは、私にとってある意味、青天の霹靂でした。これまで海外に行ったこともなく、英語も得意でないため、考えた事がないことだったからです。しかし、こんな貴重な機会をいただくことは今後二度とないだろうと思い、私に務まるだろうかと不安はありつつも引き受けさせていただくことにしました。そして帰国し、この文を書いている今、行ってよかったと心から思っています。

何よりも、ホストファミリーに恵まれたことに一番感謝しています。私がホームステイをさせていただいた Richter 家は、ご夫婦とお子さんが二人いらっしゃる 4 人家族でした。奥さんはいつも色々と気にかけてくださり、私のことだけではなく、団員の皆さんのことも気にしてくださいました。何かあるごとに「Everything OK? 」と声をかけていただいたことで、私は随分と安心することが出来ました。お子さんは二人ともライアン・カトリック・カレッジの生徒で、息子さんは車の免許を持っていることから、息子さんの車に乗せてもらい一緒に登校しました。娘さんは、家でも学校でもよく私と一緒にいてくれ、いろいろ話をしてくれました。そして旦那さんは、休みの日にはいろいろなところに連れていってくださいました。また、私が水道関係の仕事をしていることから、タウンズビルの水のことを説明してくれました。ホームステイの最終日にホストファミリーの皆さんからいただいた手紙には、「Please keep in contact with us ! From your Australian Friends」と書いてあり、とても嬉しかったです。

タウンズビル市は、どこもかしこも広大で景色がよく、関わってくださった方々の大らかさ、温かさは、環境から育まれているように感じました。

訪問中の団員の皆さんは、積極的にホストファミリーやライアン・カトリック・カレッジの生徒と関わっていく団員もいれば、反対にコミュニケーションや文化の違いに苦労している団員もいて、それぞれに楽しさも苦労も体験しているようでした。しかし、日本とは違う環境の中で、違う文化を体験し、多様な価値観に触れ生活することは、とても貴重な経験となり、一生の思い出になったと思います。それは私にとっても同じであり、これからの人生における糧になるのではないかと考えています。

最後に、このたびの周南市友好親善訪問団に関わってくださったすべての方々、そして団員の皆さんに心から感謝いたします。ありがとうございました。これからも、周南市とタウンズビル市との交流が続いていくことを願っています。



シドニーでの夕食時に全員で撮った写真です。



タウンズビル市議会議事堂で表敬訪問時に挨拶させていただきました。



奥のカエルの絵が書いてあるタンクがタウンズビル市の配水池だそうです。



交流授業で折り紙をしました。



英語の授業を団員の皆さんと一緒に受けました。



ホストファミリーからいただいた、コアラのぬいぐるみ「Waltzing Matilda」のオルゴール、ユーカリのオイル、家族の皆さんからの手紙です。

Pictures

タウンズビル市出発前の説明会や研修の様子、帰国後の研修、報告会の様子を写真でご紹介します♪

募集説明会



事前説明会・研修

第1回事前説明会



第2回事前説明会



第3回事前説明会



壮行会・最終説明会



報告会



Album





発行 周南市 観光交流課

コンベンション・国際交流推進担当

〒745-0045

山口県周南市徳山港町1-1

TEL:0834-22-8372

FAX:0834-22-8357